



拠点長: 山田 道夫

- 数学・数理科学の総合的分野において、世界の優れた研究者の長期滞在を核として多くの国際共同研究の機会を提供する訪問滞在型研究拠点の実現を通して、国際共同研究を牽引する機能の強化を図り、我が国の数学・数理科学分野の研究力強化を目指す。

研究所の概要

研究分野: 数学および数理科学

研究者数: 44人(平成30年5月1日現在)

実績: 数学・数理科学、特に数論幾何・代数幾何学・代数解析学・確率解析学・数値解析学などを中心に新しい数学理論を創造し、フィールズ賞・ガウス賞・チャーン賞・京都賞など多数の国際賞を受賞。共同利用・共同研究拠点として多くの共同研究を実施。毎年、国内外から多数の研究者が来訪。

当該研究所の現状分析

数理解析研究所は、数学・数理科学研究における基盤的研究の一つとして国際的に認知されているが、さらに我が国全体の数学・数理科学分野の向上に寄与するためには、世界の優れた研究者の長期滞在を核として多くの国際共同研究の機会を提供する「訪問滞在型研究」を実現し、若手研究者育成や国際共同研究等を推進する必要がある。

機能強化を図る取組

- 「訪問滞在型研究」を実現する。
- 共同研究の国際公募化による拠点事業の充実を図る。
- 若手研究者を中心に全国の研究者に対する国際共同研究の支援を強化する。
- 拠点事業の国際アドバイザーを設置する。

機能強化により期待される効果

- 訪問滞在型研究を中心とする拠点事業により、多様な分野の研究者の参加を通じた学際研究の推進、国際的な研究ネットワークの形成、国際的プレゼンスの向上。
- 滞在研究を行う世界トップレベル研究者との議論を通じた次世代研究者の育成。
- 数学・数理科学分野の国際的な研究動向の把握と拠点活動への反映。



Fields Medal* 受賞者
廣中 平祐(1970)
森 重文(1990)



Gauss Prize*、京都賞受賞者
伊藤 清(2006,1998)



Chern Medal Award*、京都賞受賞者
柏原 正樹(共に2018)

